

宇治拾遺物語『検非違使忠明』定期テスト対策問題 | 現代語訳・文法・内容の頻出設問と解答 解答・解説

【語句の読み・意味】

- 問1 平安京の中の犯罪の取り締まりや裁判などにあたった役人（今の警察官と裁判官を兼ねたような役職）。
- 問2 読み：きやうわらんべ（きょうわらんべ）。意味：京の都の、血気盛んな若者たち。けんかつ早い乱暴な若者の集団としてしばしば説話に登場する。
- 問3 めいめいの手に・それぞれの手に。「ごと（毎）」＝～のたびに・それぞれ。
- 問4 たくさん・大勢。
- 問5 読み：しとみ。意味：格子の裏に板を張った建具で、上につり上げて開ける戸（寝殿造りなどの建物で、窓・戸の役割をした）。
- 問6 ウ。「やをら」＝静かに・そっと。葎が風を受けてゆっくり着地した様子。「やにわに（突然）」と混同しないこと。
- 問7 驚きあきれるほどだ・意外で驚くばかりだ。現代語の「卑しい・見苦しい」の意味とのズレが頻出。「あさましがる」で「驚きあきれる」という動詞になる。

【現代語訳】

- 問8 「殺そうとしたので」。「む」は意志（～しよう）。
- 問9 「御堂の方へ上っていくと」。「ざま（様）」＝～の方・～の方向。「御堂」は清水寺の本堂を指す。
- 問10 「鳥が（地面に）とまるように」。「ゐる（居る）」＝（鳥が）とまる・（人が）座る、の意。葎がふわりと着地したたとえ。
- 問11 「どうしようもなくで・どうすることのできる方法もなくで」。「す」（サ変・する）＋「べき」（可能・当然）＋「やう」（方法）＋「も…なし」。

【文法】

- 問12 あり（ラ行変格活用動詞「あり」の連用形）＋けり（過去の助動詞「けり」終止形）。「けり」は連用形接続。説話の語り出しに使われる「けり」（伝聞された過去）。
- 問13 「それ」＝忠明。「が」＝主格（～が）。※「それが若かりけるとき」＝「忠明が若かったとき」。連体修飾格（～の）と答えてもよい（「彼の若かったとき」）が、いずれにせよ忠明を受ける。
- 問14 イ（意志）。主語が「京童部」で、「殺す」という自分たちの動作について「～（し）よう」と述べている。

問15 終止形：たり。文法的意味:完了（存続）。活用形：已然形（直後に「ば」があるため）。已然形+ば＝確定条件「～ので・～ところ」。

問16 「れ」＝受身の助動詞「る」の連用形。訳：「(蔀が) 風にあおられて・風に押し戻されるようにして」。「に」は受身の相手（動作主）を表す格助詞。

問17 落ち（夕行上二段動詞「落つ」連用形）+に（完了の助動詞「ぬ」連用形）+けれ（過去の助動詞「けり」已然形）+ば（接続助詞、確定条件）。

問18 (1) 読み：いに。(2) 終止形：去ぬ（往ぬ）、活用の種類：ナ行変格活用。ナ変は「死ぬ・去ぬ（往ぬ）」の二語のみで、活用の種類を問う問題の定番。

問19 (1) 「語り伝へたる」「言ひける」などの語（～ということだ、と語り伝えている）。(2) 「なむ」は係助詞。結びの語が省略される結びの省略（結流れと区別して「省略」）。説話の末尾の決まり文句「～となむ」。

【内容】

問20 忠明を（逃げ場がないように）取り囲んで閉じこめて。

問21 （例）脇にはさんで飛んだ蔀が風を受けて（風にあおられて）、ちょうど鳥が舞い降りてとまるように、谷の底へゆっくりと落ちたから。蔀がパラシュートやグライダーのような役割を果たした。

問22 「前の谷へ躍り落つ」の主語＝忠明。「立ち並みて見けれども」の主語＝京童部ども。古文では主語が省略されるため、動作の流れから判断する。

問23 鎌倉時代（前期）に成立した説話集。編者は未詳。『今昔物語集』と共通する話を多く収める。